薬剤師臨床研修調査票

9　　研修到達度（前年度）

9-1.　調剤業務　　到達

1 調剤の受付業務（監査含む）が実践できる
2 内服計数調剤が実践できる
3 散剤の調剤が実践できる
4 外用剤の調剤が実践できる
5 水剤の調剤が実践できる
6 調剤の鑑査が実践できる
7 注射受付（監査含む）が実践できる
8 注射調剤が実践できる
9 注射の鑑査が実践できる
10 処方箋の記載事項を確認できる
11 疑義照会を実践できる
12 薬剤の保管方法を理解できる
13 特定生物由来製品の調剤が実践できる
14 麻薬の調剤が実践できる
15 窓口対人業務が実践できる（院内スタッフ）
16 窓口対人業務が実践できる（患者）
17 患者の薬剤の使用状況を継続的かつ的確に把握できる
18 電子カルテおよび部門システムが理解できる
19 電子カルテおよび部門システムが使用できる
20 調剤機器の取り扱いができる
21 当直・夜勤対応ができる
22 緊急時の対応等について理解できる
23 院内製剤のクラス分類について説明することができる
24 院内製剤の意義，品質管理，調整方法について説明することができる
25 調製に適した作業環境を選択することができる
26 調製に適した装備を装着できる
27 調製に必要な器材，原料を適切に選択することができる
28 調製記録を作成することができる
29 調製された薬剤の監査ができる
30 調製後の後片付けができる

9-2.　医薬品の供給と管理業務　　到

1 医薬品の流通体制が理解できる
2 適正在庫に基づいた医薬品の発注が実践できる
3 医薬品の検品が実践できる

4 麻薬の管理が出来る
5 毒薬の管理が出来る
6 向精神薬の管理が出来る
7 覚せい剤原料の管理が出来る
8 特定生物由来製品の管理が出来る
9 限定薬（患者・診療科等）の管理が出来る
10 投与に必要な補助器具、説明文書等の管理が出来る
11 院内他部署の医薬品管理が出来る

9-3. 医薬品情報管理業務 到

1 記録を含め、質疑応答に対応できる
2 院内で使用可能な医薬品情報源の特徴を理解し、適切に使用できる
3 医薬品情報要約（ＤＩニュース等）を作成できる
4 処方・注射オーダのチェックシステム（マスタ）を作成・更新できる
5 プレアボイド症例を報告できる
6 医薬品安全性情報報告を報告できる
7 未承認・適応外の医薬品・医療機器使用に関する病院内の取り決めを説明できる
8 医薬品採用/緊急（臨時）採用の手順を説明できる
9 新規採用薬・採用見直しのために、複数の医薬品を評価できる
10 薬剤師が実践している業務内容の評価を取りまとめることができる
11 医薬品情報を相手が理解できる形で提供できる（コミュニケーション）
12 相手の業務内容を考慮して質問内容を理解し、適切に対応できる（コミュニケー

9-4. 病棟業務 到

1 入院前支援業務、救急外来、集中治療室、手術室業務、ハイケアユニット病棟、一般病棟、退院後ケアカンファレンス等の入院前から退院後の患者の流れを理解
2 患者、生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる
3 手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる
4 医薬品情報の収集、提供ができる
5 持参薬鑑別、服薬計画の立案ができる
6 医薬品を中心とした相互作用を確認することができる
7 ハイリスク・ハイアラート薬の服薬説明ができる
8 投与量の計算、流量の計算、投与時の注意点についてベッドサイドで確認できる
9 回診、カンファレンスにおいて、薬学的視点で発言ができる
10 医政局通知等の薬剤師関連業務について説明できる
11 様々な情報源を確認し、医師に対して処方変更を含めて処方提案ができる
12 診療報酬の算定要件について説明できる（病棟薬剤業務）
13 病棟薬剤業務日誌の作成ができる
14 紙カルテ、電子カルテを適切に使用することができる

15 種々の情報源から薬物療法に必要な情報を収集できる
16 患者、生活者と円滑にコミュニケーションができる
17 患者、生活者、カルテ情報などから患者情報・薬歴などを適切に得て評価できる
18 処方の妥当性について評価できる
19 代表的疾患について治療ガイドライン等を参照し、エビデンスに基づいた評価、
20 治療アドヒアランス向上のための提案ができる。
21 薬剤管理指導業務について適切な評価、記録（SOAP形式）の記載が実践できる
22 患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる
23 効果と副作用をモニタリングするための項目を列挙できる
24 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる
25 薬物治療の効果、副作用の発現について患者の症状や検査所見から評価ができる
26 診療報酬上の算定要件について、それぞれに必要な項目が列挙でき、対応ができ
27 指導者と情報共有が適切にできる
28 中央業務、病棟業務担当者と適切に情報が共有できる
29 入院病棟における様々な状況（急変対応等）での業務を理解し、説明できる
30 入院、退院、在宅を含めた地域での連携の重要性について説明できる
31 医師、看護師等と情報共有ができ、コミュニケーションができる
32 医師、看護師等と連携しながら、薬物治療上の問題点解決のための情報を共有し、患者の治療に貢献できる
33 病院内の多様な専門医療チームの活動における薬剤師の役割を説明できる
34 退院時に薬剤管理サマリーを作成し、転院先病院や地域薬局等との連携ができる

9-5. 無菌調製業務 到

1 無菌的混合調製の意義、管理、調整方法、鞘液処方内容及び配合変化について説明することができる
2 無菌的混合調製に必要な準備ができる
3 無菌的混合調製前の監査ができる
4 無菌的混合調製作業用（無塵衣）の着用ができる
5 クリーンベンチの操作ができる
6 無菌的混合調製ができる
7 無菌的混合調製済鑑査ができる
8 無菌的混合調製後の後片付けができる

9-6. がん化学療法 到

1 標準レジメンの治療スケジュールを理解し、監査することができる
2 各レジメンの必要な支持療法薬を理解し、監査することができる
3 抗がん薬曝露対策（安全キャビネット、防護具、閉鎖式接続器具）を実践できる
4 抗がん薬を調製することができる
5 がん化学療法の初回指導ができる
6 副作用を客観的指標（CTCAE）により評価することができる

7 必要な支持療法薬を選択し、医師へ提案することができる
8 経口抗がん薬のアドヒアランスを評価することができる
9 抗がん薬の減量や延期の必要性について評価し、医師と協議することができる
10 腫瘍性疼痛を客観的指標（NRS、Face Scale等）により評価することができる
11 必要な鎮痛薬を選択し、医師へ提案することができる
12 患者からの相談に対応することができる
13 医師・看護師等の医療従事者からの相談に対応することができる

9-7. 在宅訪問（在宅医療・介護） 到

1 地域の在宅医療の仕組みや在宅医療に関わる多職種の役割を理解し、連携して対
2 患者・生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる
3 患者の私的な領域に入る意識を持ち、倫理規範を遵守し、適切な姿勢で対応でき
4 患者、家族、介護者および生活者等と円滑にコミュニケーションができる
5 医薬品情報の収集、提供ができる
6 医薬・生活衛生局を中心とした各種通知等の薬剤師関連業務について説明できる
7 医薬品の適切な管理、保管方法を説明できる
8 医療保険・介護保険の在宅医療に関する制度や公費制度等について理解し、説明
9 適応する保険等を踏まえて、制度に基づき、重要事項等説明書等を作成して患者や家族と契約を結ぶことができる
10 医師と連携し、「診療情報提供書」の提供を受け、薬学的管理指導計画の立案が
11 患者の状況に適した医薬品の選定、提案ができる
12 患者の生活様式を把握し、状況に適した調剤・服薬指導などの判断・対応ができ
13 体調（食事・排泄・睡眠・運動・認知など）を把握し、薬の影響をアセスメント
14 患者の服薬状況や効果の確認、副作用の有無などの確認ができる
15 患者、家族およびケアマネジャーと連携した薬学的管理指導計画を立て、他の訪問職種にも服薬に関するフォローの依頼等ができる
16 実施した業務の内容を薬歴に適切に記録できる
17 訪問後、医師・ケアマネジャーに報告書の提出ができる
18 得られた患者情報に基づいた薬学的知見を多職種と共有することができる
19 薬物療法における患者のアドヒアランス向上のための提案ができる
20 医療・介護関係者と共有する患者情報を総合的に判断し、薬学的知見から在宅療養の方向性等について意見することができる
21 サービス担当者会議に参加し薬学的情報を提供できる
22 サービス担当者会議に参加し、薬学的知見からサービス内容の見直し等を提案で
23 在宅医療の質の向上のため、退院時カンファレンスに参加し、退院後の療養錠必要な薬剤師に関する説明および指導を行うことができる
24 居宅療養管理指導を未実施の患者においても、その必要性を判断し、医師やケアマネジャー等と適切な協議ができる

25 患者や介護者、また医師等から夜間・休日、時間外に入る連絡に対応する体制を整えることができる

26 衛生材料等の知識も有し、医薬品以外にも必要と考えられる物品等の提供や、他のサービス担当者に必要な物品の適切な選択を提案できる

27 （緩和ケア・終末期への対応） 在宅末期がん患者の終末期に対する薬 物治療・緩和ケアについて、提案を含め た医師との連携ができる

28 （緩和ケア・終末期への対応）在宅で看取られる患者（老衰を含めたターミナル）およびその家族に対して、服薬管理を含めた精神的にも寄り添うことができ

29 （緩和ケア・終末期への対応） 麻薬を含めた残薬の取り扱いについて説 明できる （麻薬の安全な回収・廃棄等を含む）

30 （緩和ケア・終末期への対応）退院後に在宅疼痛緩和に移行する患者の情報を医療機関と共有できる（疼痛緩和独特の注意事項等についての退院元医療機関と情

9-8. 医療安全 到

1 患者の安全を最優先に考えることが出来る
2 患者が医療に参加する重要性を理解できる
3 問題に対する改善点の導きと共有に取り組める
4 規則や手順を守ることが出来る
5 職員間のコミュニケーションを図ることができる
6 危険の予知と必要な確認ができる
7 自己の健康管理をすることができる
8 医療技術の活用と業務の工夫をすることができる
9 誤薬を防ぐ対策を理解できる
10 環境整備（場所、記録内容）を実践できる

9-9. 感染制御 到

1 標準予防策（手指衛生、個人防護具）を適切に使用できる
2 代表的な感染症の予防策と適切な消毒薬を選択できる
3 2について他者に説明できる
4 感染症発生時の初期対応を説明できる
5 針刺し事故時における初期対応を説明できる
6 感染症症例において適切な抗菌薬の選択ができる
7 院内感染に関するチーム活動（ICT、AST）の役割を理解している

9-10. 地域連携 到

1 自施設と病床機能の異なる他施設と患者情報の共有を行うこと等において連携できる

2 地域医療者を含む研修会等に参加し、他施設の医療従事者へ適切な医療を提供するための情報交換会を実施できる

3 患者情報以外で他施設と業務連携を行うことができる

4 在宅期（主に診療所や調剤薬局）での適切な薬物治療の視点を共有できる
5 慢性期（主に中小病院の療養病床）での適切な薬物治療の視点を共有できる
6 回復期（主に中小病院の療養病床）での適切な薬物治療の視点を共有できる
7 急性期（主に大規模病院や中小病院の一般病床）での適切な薬物治療の視点を共有できる
8 高度急性期（主に大学病院や大規模病院）での適切な薬物治療の視点を共有できる
9 高齢者介護施設（特別養護老人ホーム・介護医療院など）の従事者から見る適切な薬物治療の在り方を共有できる
10 入退院支援看護師/医療ソーシャルワーカーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる
11 ケアマネジャーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる
12 薬局から報告される服薬情報提供書（トレーシングレポート）を踏まえた対応ができる
13 薬局からの疑義照会に対応ができる
14 一般用医薬品等の販売や地域住民の健康維持・増進に関する相談に対応できる

9-11. TDM業務 到

1 TDMの意義及び一般的な対象薬を理解し、自院で扱うTDM対象薬を説明できる
2 自院でのTDM業務の流れ（オーダー、採血、測定、解析、治療へのフィードバックなど）を説明できる
3 TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる
4 血中濃度に影響を与える因子について例を挙げて説明できる
5 使用頻度の高いTDM対象薬剤（VCM,TEICなど）の初回投与量・維持投与量の算出・処方提案ができる
6 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる
7 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実
8 肝機能・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる
9 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる

9-12. ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療 到

1 手術室における薬剤師の業務について理解し、説明できる
2 集中治療室における薬剤師の業務について理解し、説明できる
3 ハイケアユニット病棟における薬剤師の業務について理解し、説明できる
4 小児病棟における薬剤師の業務について理解し、説明できる
5 老年症候群の状態にある患者に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる
6 妊婦・授乳婦に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる
7 精神疾患患者に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる
8 退院時に薬剤管理サマリーを作成し、転院先病院や地域薬局等との連携ができる

注1：　到達度評価シート参照

＜到達度＞

1. 観察・聴講した　（概要が分かる）
2. 説明できる　（理解している）
3. 補助的に行うことができる　（指示の元動ける）
4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる）
5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を一人で適切に遂行できる）
6. 経験豊富に行える（問題発生時に適切に対応できる）
7. 指導できる（指導ができ、より多くの業務ができる

注２：（目標を達成した研修薬剤師数／研修薬剤師総数） x 100

達目標値（注１目標達成率（注２）

7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
5	
5	
5	
5	
5	
5	
5	
5	

達目標（注１目標達成率（注２）

7	
7	
7	

7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	

|達目標（注１ 目標達成率（注２）

4	
5	
4	
3	
4	
4	
2	
2	
3	
3	
4	
4	

|達目標（注１ 目標達成率（注２）

4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
2	
4	
2	
4	
4	
4	

4	
4	
4	
4	
2	
2	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
4	

達目標（注１ 目標達成率（注２）

5	
5	
5	
5	
5	
5	
5	
5	

達目標（注１ 目標達成率（注２）

5	
5	
6	
6	
5	
4	

3	
4	
3	
4	
3	
4	
4	

達目標（注１）目標達成率（注２）

4	
4	
4	
4	
3	
4	
3	
4	
4	
4	
4	
4	
4	
3	
4	
4	
4	
4	
3	
4	
3	
4	
3	

3	
4	
3	
3	
4	
3	

l達目標（注１ 目標達成率（注２）

7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	
7	

l達目標（注１ 目標達成率（注２）

7	
7	
5	
5	
5	
4	
7	

l達目標（注１ 目標達成率（注２）

5	
3	
3	

3	
3	
3	
3	
3	
3	
3	
3	
5	
5	
5	

|達目標（注１）目標達成率（注２）

5	
5	
5	
5	
5	
4	
4	
4	
3	

|達目標（注１）目標達成率（注２）

4	
4	
4	
4	
3	
3	
3	
4	